

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）

個人研究

2014年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	文学部・教授	石川 巧 印
研究課題	占領期に〈地方〉で発行された大衆雑誌の発掘・保存と出版社の実態に関する調査研究	
研究期間	2014 年度	
研究経費	(支出金額) 1,000,000 円 / (採択金額) 1,000,000 円	

研究の概要（200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと）

敗戦直後の日本は、印刷用紙生産量の極端な落ち込み（1945年の用紙生産量は1941年の22%）により雑誌・新聞が出回りにくい状況に陥る。そうしたなか、戦災で甚大な被害を受けた首都圏にかわって新たな雑誌文化の担い手になったのは全国の地方都市の出版社だった。だが、それらの雑誌は図書館等にもほとんど所蔵されておらず、古雑誌として出回っているものも数少ない。本研究は、こうした状況をふまえ、占領期に〈地方〉で発行された大衆雑誌を発掘・保存するとともに、総目次や解題の作成によって戦後日本における雑誌文化、および、言論や表現の諸相を考察するための基礎資料を構築しようとするものである。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

[ 戦後占領期 ] [ 大衆雑誌 ] [ 地方出版 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)**1 既研究に関する出版活動**

- (1) 2013 年度までの研究活動・資料調査を通じて、『月刊読売 復刻版』(三人社)、『高度経済成長期の出版社調査資料集』(全 7 巻・金沢文圃閣)、『黒猫 復刻版』(全 11 冊・別冊 1、三人社)に関する準備を始めていたが、2014 に SFR を取得したことで、それらの解題などに含める情報や資料を補うことができた。
- (2) この間、10 年以上にわたって福岡市史の編纂にあたっているが、その特別編として 2015 年度に『近代福岡の印刷と出版』(仮題) が刊行されることが決まり、同書の第 5 章・印刷用紙の配給と GHQ の検閲——敗戦と混乱と第 6 章・活字に群がる人々——占領と復興/1945-1954) を担当する。2014 年度の段階で「占領期の福岡における製紙・印刷・出版(「市史ふくおか」第 9 号、福岡市史編纂室、2014 年 3 月)を書いているため基本的にはその内容を踏まえた記述になるだろうが、○敗戦後の九州における用紙事情、○福岡の印刷業者と出版物の流通、○文化団体・芸能団体の再編と活動の広がり、○都市の復興、○GHQ/SCAP による検閲の実態、○「九州文学」の復刊、○福岡に集まった書き手たち、○福岡から巣立った書き手たち、○出版社と雑誌①、○出版社と雑誌②、○出版社と雑誌③、○同人雑誌の流行——という項目立てで原稿の執筆を終えている。

**2 個別の雑誌研究**

- (1) 「国際女性」(国際女性社)は、谷崎潤一郎と新村出を顧問に迎え、終戦直後の 1946 年 7 月 1 日に京都で創刊されながら、わずか 7 冊(第 3 号は未見、最終号はゲラのみ確認済)を編集したのち用紙不足で休刊となった B5 判の総合雑誌である。国内の資料保存機関で一括所蔵しているところはなく、いまだ実物が確認されていない号があるという意味で、いわば「幻の雑誌」である。今回、SFR の研究を通じて同誌の創刊号と第 2 号を発見し、はじめて雑誌創刊の経緯と編集方針がみえてきたため、○この雑誌に、谷崎潤一郎をはじめとする著名作家の全集・単行本未収録作品が数多く掲載されていること、○敗戦直後の日本における出版文化、とりわけ、戦禍を逃れて地方雑誌に作品発表の場を求めた作家・学者・文化人の活動を把握するうえで貴重な雑誌であること、○戦後、京都時代の谷崎潤一郎の活動において、いまだ空白になっている部分を埋める内容を多く含んでいること、を報告し、敗戦直後における日本の出版文化を再検証すると同時に、同時代の地方雑誌を発掘・保存する意義を訴える論文を執筆した。具体的には、「幻の雑誌「国際女性」と谷崎潤一郎」と題する論文を「新潮」(新潮社)2015 年 5 月号に掲載し、続いて、総目次などを付した詳細研究は「雑誌「国際女性」の資料的価値」(「跨境」高麗大学日本研究センター)という論文を準備している。
- (2) 二年前に発見し詳細総目次と解題をまとめた雑誌「小説春秋」に関しては、「雑誌「小説春秋」はなぜ歴史に埋没したのか? 附・詳細総目次」(「絃説」Ⅲ-10 号、2013 年 9 月)を発表しているが、今回、SFR の研究として同誌に掲載されている小説等に関する個別研究を開始した。同誌には尾崎士郎、戸川幸夫、山本周五郎、北条誠、火野葦平、獅子文六、今日出海、平林たい子、井上友一郎、檀一雄、有馬頼義、渡辺啓介、藤原審爾、海音寺潮五郎、松本清張、邱永漢、富田常雄、小島政二郎、小島信夫、寺内大吉、八木義徳、遠藤周作、新田次郎、子母沢寛、小山いと子といった作家たちの全集・単行本未収録作品が掲載されており、新発見資料も数多くある。今回はその第一弾として、「職業作家・松本清張の出発—全集未収録小説「女に憑かれた男」、「溪流」を読む」(「大衆文化」第 12 号、2015 年 3 月)を活字化した。この両作品は『松本清張全集』や単行本はもちろん、『松本清張事典』や研究論文、研究書においてもいっさい言及がなされていない新資料であり、「毎日新聞」などでも大きな話題となった。

**研究成果の概要 (つづき)****3 出版社に関する研究**

占領期の雑誌研究を進めていくなかで、新たなテーマとして浮上した問題に出版社の研究がある。SFR ではこの点に関しても重点的に取り組み、その成果の一部を『高度成長期の出版社調査事典 全8巻』(2014年～2016年、金沢文圃閣)に反映させることができた。同事典の巻頭には「内部資料から見る出版史——『高度成長期の出版社調査事典』解題」を収めており、1945年～1970における出版社の状況を知るための基礎資料としてこの事典がいかにか有用であるかを説明している。また、この事典には創業、資本金、代表者、主要スタッフ、沿革、取引銀行、年商、従業員、仕入先、販売方法、出版状況(雑誌の発行部数)、出版種類の比重、社有不動産、特記事項など、出版社の経営状況を如実に示すような稀少データが記されており、今後の出版史研究において様々な活用が期待できる。

**4 SFR での調査を踏まえた個別の文学研究**

- (1) 今回、戦後占領期の雑誌研究を進めていくなかで、個別の興味深い文学テキストに出逢うことも多く、個々の作品・作家に関する単独の論文をいくつかまとめた。具体的には、「姦通する女たち——太宰治「冬の花火——三幕」精読」(「九大日文」25号、2015年3月)、「群衆とは何者か?——戦後の歴史小説における〈一揆〉の表象」(「叙説」第Ⅲ期—12号、2015年2月)、「久保田万太郎の空襲」(「立教大学日本文学論叢」第14号、2014年9月・立教大学大学院)、「ネゴシエーションとしての文学—菊池寛が描いた〈法〉と〈法廷〉」(「日本近代文学」第91号、日本近代文学会、2014年11月)などがそれにあたるが、いずれも SFR での調査がなければ執筆することができなかった論文であり、間接的にはあるが SFR の研究成果として位置づけることができるだろう。
- (2) SFR を用いて研究した内容を踏まえて、2014年秋には中国の北京師範大学で開催された国際フォーラムに参加し、口頭発表(「雑誌「黒猫」と戦後探偵小説の胎動」(東アジアと同時代日本文学フォーラム第2回・国際シンポジウム「大衆化社会と日本語文学」2014年10月24日～26日)を行った。日本の戦後探偵小説の隆盛を考えるうえで、「黒猫」という雑誌が果たした役割を総合的に検証したもので、海外研究者からもさまざまな質問・意見をいただいた。

**5 カストリ雑誌研究**

占領期のカストリ雑誌(地方で発行されたものも含む)の研究に関しては、この間、継続的に行っているが、SFR 予算をもとに更なる資料調査を行い、いくつかの主要雑誌に関しては全冊を揃えることができた。この成果は今年度以降、順次活字化していく予定だが、2015年度に立教大学と東京芸術劇場が主催する「池袋＝自由文化都市プロジェクト」における企画および展示にその成果を反映することになっている。また、「池袋学」では「戦後池袋の検証—ヤミ市から自由文化都市へ—」と題するシンポジウム(2015年9月12日)も開催するが、この企画に関しても SFR の研究で得た知見がさまざまなかたちで活用されている。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

**① 誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)**

- 石川巧 単著 幻の雑誌「国際女性」と谷崎潤一郎(「新潮」第112巻第5号、2015年5月号、150-159頁)
- 石川巧 単著 姦通する女たち——太宰治「冬の花火——三幕」精読(「九大日文」25号、2015年3月、108-124頁)
- 石川巧 単著 職業作家・松本清張の出発—全集未収録小説「女に憑かれた男」、「溪流」を読む(「大衆文化」第12号、2015年3月、32-48頁)
- 石川巧 単著 群衆とは何者か?——戦後の歴史小説における〈一揆〉の表象(「絃説」第Ⅲ期—12号、2015年2月、111-122頁)
- 石川巧 単著 占領期の福岡における製紙・印刷・出版(「市史ふくおか」第9号、福岡市史編纂室、2014年3月、6-21頁)
- 石川巧 単著 久保田万太郎の空襲(「立教大学日本文学論叢」第14号、2014年9月・立教大学大学院、49-72頁)
- 石川巧 単著 ネゴシエーションとしての文学—菊池寛が描いた〈法〉と〈法廷〉(「日本近代文学」第91号、日本近代文学会、2014年11月、63-78頁)

**② 図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)**

- 石川巧 編・解題 三人社『「黒猫」復刻版』全11冊・別冊1(2014年、700頁)
- 石川巧 編・解題 金沢文圃閣『高度成長期の出版社調査事典 全8巻』(2014年～2016年、4500頁)
- 石川巧 監修・解題 三人社『「月刊読売」復刻版』(2014年～2016年、6000頁)
- 石川巧 単著 三人社『「月刊読売」解題・詳細総目次・執筆者索引』(2014年、392頁)

**③ シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)**

- 石川巧 手記のなかのヒロイズムと清らかな挫折を希求する読者たち—樺美智子『人知れず微笑まん』・奥浩平『青春の墓標』・高野悦子『二十歳の原点』(近代文学合同研究会・第14回シンポジウム「大学生と文学」、2014年12月21日、立教大学)
- 石川巧 雑誌「黒猫」と戦後探偵小説の胎動(東アジアと同時代日本文学フォーラム 第2回・国際シンポジウム「大衆化社会と日本語文学」、2014年10月24日～26日、中国・北京師範大学)

**④ その他(学会発表、研究報告書の印刷等)**

- 石川巧 ジェノサイドとしての抑留—長谷川四郎「小さな礼拝堂」論(原爆文学研究会、2015年3月7日、長崎大学)